

自信をもって自分の意見を書くための作文指導の工夫

1. 設定理由

国語の授業を行っていく中で、書くことに苦手意識をもつ生徒が多いと実感している。特に、自分の考えを理由や根拠を明らかにして、わかりやすく書くことに苦手意識をもっている。課題に対応した作文を書こうとした際には、課題に対する知識が少なくて何を書いていいかわからず、書けなくなってしまうこともあった。

特に、書くことが苦手な生徒が字数の多い作文を書く場合、途中で書くことを諦めてしまったり、考えるだけで完成しなかったりすることもよくある。行事後の個人新聞やプレゼンの原稿を書くときなども、書く内容を教えながらでないと完成できない生徒もいる。そのような生徒たちは、回を重ねるごとに抵抗を示し、ますます自信をなくしているように思える。書くことが苦手な生徒が自分の力で書けるようになるには、観点を与えて考えを引き出し、型を使って書かせることで、文章を書き慣れさせる必要があると考えた。

“書く能力”を育成すれば子どもは思考し、他教科で活用され、生きる力の育成にもつながると考えた。そこで、付けたい力を明確にし、決まった文型の短作文を書くことを継続して行えば、生徒が負担に思わずに書くことができ、自信をもって自分の意見を書けるだろうと考え、本主題を設定した。

2. 研究仮説

付けたい力を明確にし、決まった文型の短作文を書く機会を増やせば子どもたちが自信をもって自分の意見を書くことができるだろう。

3. 研究内容

(1) 付けたい力を明確にする。

(2) 生徒が書きやすい課題を与え、文型を提示し、読んだことを生かして文章を書かせる。

これらの手だてとして短作文・課題作文を取り入れた。

4. 結論

○付けたい力が明確になったことで、段階的に指導ができた。個別の能力に絞って課題を考えると、様々な教材で書く力を伸ばすことができた。

○型を与えたことで、書くことが明確になり、生徒が意欲的に書くことができた。題材や観点が決まっているため書くことがない、書けないという生徒にも指導がしやすく、生徒のつまずきにに応じて個別に支援することができた。

○段階的に書く能力を更に高められるように、年間指導計画に組み入れていきたい。

○今後は自らテーマを選んで書く機会を増やし、推敲する時間も充実させたい。

山武支部

九十九里町立九十九里中学校

関 真紀

自信をもって自分の意見を書くための作文指導の工夫

1. 設定の理由

国語の授業を行っていく中で、書くことに苦手意識をもつ生徒が多いと実感している。特に、自分の考えを書く際に、理由や根拠を明らかにしてわかりやすく書くことに苦手意識をもっている。授業で筋の通った発言をしているため、意見を書く能力はあるように思われるが、記述問題になると空欄のままにしている生徒をよく見かけた。短歌や俳句、詩などの比較的短い創作文であれば積極的に書く生徒も多いが、課題作文や感想文など、自分の考えをわかりやすく、説得力のある文章で書こうとすると筆が止まってしまい、やる気をそがれたような表情になることがあった。また、出された課題に対応する作文を書こうとした際には、その課題についての知識が少なくて何を書いていいのか分からず、書けなくなってしまうこともあった。

特に、書くことが苦手な生徒が字数の多い作文を書く場合、途中で書くことを諦めてしまったり、時間いっぱい考えただけで作文が完成しなかったりすることもよくある。校外学習や体育祭などの行事のあとに、個人で新聞をつくったり、プレゼンの原稿を考えたりするときなども、1対1で書く内容を教えながらでないと完成できない生徒もいる。そのような生徒たちは、回を重ねるごとに書くことに抵抗を示し、文章を書くことにますます自信をなくしているように思える。書くことが苦手な生徒が自分の力で書けるようになるには、まずは書く観点を与えて考えを引き出し、型を使って書かせることで、文章を書くことに慣れさせる必要があると考えた。

“書く能力”を育成すれば子どもは思考し、他教科で活用され、生きる力の育成にもつながると考えた。具体的な手だてとして、短作文を書く機会を増やすことを通して、①「付けたい力を明確にして指導をする」②「授業で学んだことや自分の生活経験など生徒が書きやすい課題を与え、文型を提示し、読んだことを生かして文章を書かせる」ことを考えた。以上を継続して行えば、生徒が負担に思わずに書くことができ、自信をもって自分の意見を書けるだろうと考え、本主題を設定した。

2. 研究内容

(1) 付けたい力を明確にする。

(2) 生徒が書きやすい課題を与え、文型を提示し、読んだことを生かして文章を書かせる。

これらの手だてとして短作文・課題作文を取り入れた。

3. 実態

(1) アンケート調査 (調査人数 34人, 欠席1人 実施日 2016年9月2日)

1 意見文を書くことは得意か, 苦手か。

得意[2] どちらかといえば得意[8] どちらかといえば苦手[13] 苦手[11]

2 意見文を書くときや書いた後に行う次の事柄に対して, 得意かどうか。

①自分で書きたいこと(テーマ)を探す。

得意[5] どちらかといえば得意[11] どちらかといえば苦手[11] 苦手[7]

②ある事柄に対して自分の意見を持つ。

得意[6] どちらかといえば得意[13] どちらかといえば苦手[11] 苦手[4]

③自分の意見を文章にして表現する。(書くこと)

得意[2] どちらかといえば得意[13] どちらかといえば苦手[13] 苦手[6]

④与えられた課題について, 自分の生活や社会生活と関連させて考える。

得意[1] どちらかといえば得意[12] どちらかといえば苦手[14] 苦手[7]

⑤自分の意見を補強する情報を集める。(取材・集材)

得意[3] どちらかといえば得意[11] どちらかといえば苦手[13] 苦手[7]

⑥書く事柄を説得力を持たせるような順番にする。(構成)

得意[1] どちらかといえば得意[6] どちらかといえば苦手[19] 苦手[8]

⑦書いたものを間違いがないか, 読み手にわかりやすいか見直し, よりよくする。(推敲)

得意[3] どちらかといえば得意[9] どちらかといえば苦手[16] 苦手[6]

⑧決められた書き方に従って, 書く。(書き出しや書く順番が決まっている意見文を書くこと)

得意[1] どちらかといえば得意[16] どちらかといえば苦手[11] 苦手[6]

⑨書いた作品を友人に見せたり, 話したりして交流する。

得意[1] どちらかといえば得意[9] どちらかといえば苦手[15] 苦手[9]

子どもたちは何かを「読む」ときに, この文章が自分とどのような関わりがあるのか, 社会や自分の身の回りの生活に関係づけて考えることが苦手であると感じている。詩「挨拶——原爆の写真によせて」や「高瀬舟」を読んだ際にも, 作品の感想をもつことはできるが, 現在の社会問題や自分の生活, 体験と結びつけて考えるところでつまづいている生徒が多い印象を受けた。そこで, 改めて9月に実態調査を行った。

問1の「意見文を書くこと」については「苦手」「どちらかといえば苦手」と答えた生徒が半数を超えた。双括型・頭括型・尾括型などの形式に沿った作文を書いたり, 身近に感じていない課題に合わせて文章を書いたりすると, 「どのように書けばいいかわからない」と筆が進まない生徒が多い。また, 作文を書く上で, 「書く事柄を説得力を持たせるような順番にする」構成についても苦手意識をもっている生徒の割合が多いことが調査の結果からもわかった。

(2) 意見文を書く能力を見る実態調査

I 使用した物：『「千葉のやる気」学習ガイド』3（千葉県教育委員会作成）

II 目的：生徒の意見文を書く能力を把握し、どの部分につまずきがあるか確認する。

III 実施学年：3 学年（9 月・2 月）

IV 考察

・『「千葉のやる気」学習ガイド』では、問1で「ア 意見文で一番伝えたいこと」「イ 課題の現状」「ウ 課題を解決するための自分の考え」を書き、問2で自分の考えを指定字数以内で書く形になっていたため、生徒は書きやすいようであった。また、生徒の書いた文章からどこでつまずいているかを把握しやすかった。

・「水の汚染」「大気汚染」についての知識が少なく、考えをまとめられなかった生徒がいた。

～「千葉のやる気」学習ガイド3を使った実態調査～

と	う	ろ	ろ	を	な	
思	人	は	た	う	人	は
う	が	は	た	う	人	は
り	が	い	た	う	人	は
け	く	の	り	た	い	は
他	な	の	ま	中	の	は
意	い	と	の	た	は	見
の	出	い	の	は	を	体
米	う	こ	け	ら	な	的
る	事	と	を	し	て	に
事	の	国	り	く	な	明
た	び	題	た	て	い	出
し	も	と	思	え	ま	る
思	い	と	思	え	ま	る
ま	同	題	て	人	大	知
す	題	に	い	が	を	ら

120

図1 図1のメモをもとに、自分の考えを百二十文字程度で書きなさい。

ウ 課題を解決するための自分の考え
日本のえらい人が、国と話しをして、悪い空気を治さないようにしてもらう

イ 課題の現状
空気が汚くて、気分が悪くなってしまう人が居る

ア 意見文で一番伝えたいこと
自分たちが出せることをやる

問1「大気汚染」について、あなたが原稿を作成するとして、次のア～ウについてメモをとりなさい。

問2「水質汚染」について、「最近の社会生活の中から課題を見つけ、意見文を書く」ということになり、課題の中から「大気汚染」を選んでとして、あとの問いに答えなさい。

問3「水質汚染」の中から課題を決め、事実や意見がはっきりとあらわれるように書き表すことができる。

（6）書くこと

生徒A：一生懸命で意欲はあるが、書くことが苦手な生徒である。カギ括弧や促音、読点を文字と一緒にのマスに書くなど、原稿用紙の正しい書き方が定着していない。言いたいことはなんとなくわかるが、記述の仕方に難がある。「～ので」のつながり方に課題があり、何を言いたいのかがつかみにくい。

4. 実践内容

(1) つけたい力を明確にする。

作文が苦手な生徒の作品を見ると、言いたいことがあるのは伝わってくるが、何を言いたいのかがはっきりせず、文章のつながりに課題があり、わかりにくいものがあった。言いたいことを適切な言葉で表現し、説得力をもたせるような順番で書くには、意見文の型を学んで、自分の考えを展開させることが必要だと考えた。

佐竹秀雄先生（日本漢字能力検定協会現代語研究室長）の講演において、次の内容が印象に残った。

「(2)文章力を構成する個別能力を訓練しよう。

◇文章力は多くの能力の複合体である。

例えば、内容を作り上げる力、文章構成を考える力、表現にする力、文字にして書く力などが考えられる。」

この考え方を踏まえて作文指導の際には、身に付けたい力を分類して考え、ステップで解決させることが必要であると感じた。そこで、本研究では身に付けたい力を分類し、力を伸ばすためにどのようなとりくみが有効か考えた。

指導事項	身に付けたい力	力を伸ばすためのとりくみ
A 「構成」	考えたことなどを読み手がわかりやすいように構成する力。	・使わせたい「書く」型（フレーズ）や構成の型（アウトライン）を教える。 ・課題作文の形で学習したことを書かせる。
B 「記述」	考えたことを言葉で表現する力。	・短作文を多く書かせ、論理的な文章表現に慣れさせる。

(2) 課題作文を書く機会を増やし、作文に慣れる。

A 「構成」→使わせたい「書く」型（フレーズ）や構成の型（アウトライン）を教える。

【1】Ⅰ 教材：「握手」

Ⅱ 目標：ルロイ修道士の人物像を捉えよう。

Ⅲ 実施学年：3学年（4月）

Ⅳ 学習内容：「ルロイ修道士は〇〇〇人物だ。」「どうしてそう思ったかという
と、（……本文から一つ以上引用して書く……）とあり、」「～～
と思ったからだ。」という型にあてはめて人物像を書く。

- ・型の構成を使って、相手にわかりやすい文章を書くことができた。
- ・根拠を求めたことで、引用のきまりを知り、記述に生かすことができた。

- ・他の生活体験と結びつけて根拠を書くなど、説得力のある文章にするのに多様な書き方があることを伝える必要があった。

- 5 -

【2】I 教材：「学びて時にこれを習ふ——『論語』から」

Ⅱ 目 標：孔子の述べようとしていることを確認し、自分の経験を振り返って作文を書こう。

Ⅲ 实施学年：3 学年（5 月）

IV 学習内容：「論語」の孔子の言葉を知り、同じようなことを思った経験を振り返って作文を書く。

成果

- ・課題作文の形にすることで、書く視点がはっきりしていたので、いつもより書き進めることができた。
- ・部活動や学校生活と結びつけたため、根拠の部分がよく書けた。

課題

- ・書き進められない生徒は、体験から自分の考えをまとめる部分が苦手だったようである。自分の体験から「つまり」で要約する練習が必要であると感じた。
- ・自分の経験に関係づけて考える部分が難しかったようである。友だちの考えを聞く時間をとるなど交流の時間をとると、更に考えが深まったかもしれない。
- ・立場をはっきりさせなかったため、孔子が言う内容と書いた内容が一致しなかった。

生徒 B

「論語」から

345

◎孔子の述べようとしていることを鑑照し、自分の経験を取り返つて作文を書こう

①「學びて時だ……」學問には、自分自身で學ぶこと、「セム」と學問について語り合うこと、學問によって自分の「人格」が完成していくことと意識がある。「セム」がある。

②「故きを温めて新しきを知れば……」先人の述べた学説などを繰り返し研究して一方で「新しい」意義を発見できれば、人の師となる資格がある。

⑤「學びて思はぬは……」「学ぶが」「ことと」「考える」「こととはちがふが」

④「これを知る者は……」何事も、それを「知、て、い、う」だけで、それを好む人に及ばず、好むということとは、それを愛しぬ人には及ばない。

☆課題作文

「二段落構成とする。ただし、一段落日には「私は①・②・③の孔子の言葉に共感した」とだけ書く。二段落日には、自分の生活や体験を振り返り、一段落目で選んだ「論題」の言葉をあてはまる場面を思い出して書く。

ヒント(体験→まとめ)→つまり…要約)→細めくくりの言葉とまとめる。

（最後は「たから」（三つものこと）から「私は開子のQの百葉に片断した」と書いて終わらせるとよい。）

常体（うだ・である調）で書く。
一六〇字以上二〇〇字以内で書く。

[illegible]

Ⅲ 内 容 : ①双括型・頭括型・尾括型の構成の仕方を理解し, 序論・本論 1・本論 2 (反対意見)・結論の内容構成を学ぶ。

④アウトラインを書き、四百字程度の意見文を書く。

- ・教材文が意見文のため、構成を分析して自分の作文に生かすことができた。
- ・新聞の情報をもとにして考えを書けるため、自分の考えを形成するのが苦手な生徒には、とりくみやすかった。

- ・題材の選定が難しい。継続的にとりくむことで、より主体的な学習になった。

生徒 B

↑新聞の社説で、序論・本論1・本論2・結論を全体で確認したあと、ワークシートに取り組んだ。
(指導書のワークシートを利用した。)

[illegible]

B「記述」→短作文を多く書かせ、論理的な文章の書き方に慣れる。

【1】新聞記事の感想を書こう。

I 教材：新聞記事ワークシート

II 目的：書くことのもとになる様々な情報に触れ、考える習慣をつける。

III 実施学年：3学年（2学期）

IV 内容：「九十九タイム」（10分間の朝読書・朝自習の時間）で新聞の切り抜きを貼ったワークシートを配付し、感想を書かせる。書いた感想の中からいくつかを選んで掲示した。月に2回程度の頻度で、4回行った。

成果

- ・書くための課題が明確であったため、自分の考えを書けた生徒が多かった。
- ・タイムリーな話題や身近な話題を生徒に提供することができたため、生徒が新聞に興味をもつきっかけとなった。

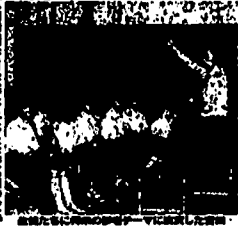
課題

- ・書きすすめられない生徒に対しての添削の時間がもっと必要だった。
- ・国語科での活用をはかるため、国語科の帯单元として設定すると良かった。

生徒 B

(B)
(A)

「好きなことを仕事に」
新聞大の宮田さんが夢講演



宮田さんは、新聞大で講演した。夢を叶えるには、好きなことを仕事にすることが大切だ。宮田さんは、新聞大で学んだことを活かして、夢を叶えることができた。宮田さんは、新聞大で学んだことを活かして、夢を叶えることができた。

宮田さんは、新聞大で講演した。夢を叶えるには、好きなことを仕事にすることが大切だ。宮田さんは、新聞大で学んだことを活かして、夢を叶えることができた。宮田さんは、新聞大で学んだことを活かして、夢を叶えることができた。

「大事なことをやるだけ」

ひたむきな探求心で大発見



ひたむきな探求心で大発見。研究者は、ひたむきな探求心で大発見をした。研究者は、ひたむきな探求心で大発見をした。研究者は、ひたむきな探求心で大発見をした。

- Ⅲ 内 容 : 作品から筆者が考える「自立」とはどのようなことかを読み取り、自分が考える「自立(した人)」とは何かを考え、文章にまとめた。

5. 生徒の変容

生徒 A：初めの主張と結論がずれてしまっているが，序論・本論・結論の型を意識して書いている。反対意見を想定して，それに反論する形で意見を展開させようとしている。「しかし」「だから」の接続詞を適切に使い，説得力のある構成にしようとしている。《資料 P：2 参照》

～「千葉のやる気」学習ガイド 3～ P.63・P.64

[illegible]

四三 右のメモを参考にして、あなたの考えを七分以内を口説に、二面写し機で書きなさい。

112 小田部 正 著『日本経済の発展』(経済学叢書) 1963

た、その快報がちと人なほ聞かせるがききなさい。(新撰)

55- (b)(6)(b)(7)(C)

ツミはふたけあるのか

情報2「インターネット」

じうやたらきれいにできろのれ訓へち

二「田舎の時間」に、「最近の社会生活のなかから問題をえつて、書きたいを書く」ということになり、読者のなかから「水の浮城」を選んだとして、おとの園に答えるが、

ア 意見文で「理由をたいていこ

水色きれいにしていこう

イ 重版の版料

自分の住んでいる町のことは丁度きいた

ウ 監獄を脱獄するたから自分の身

エミのおイ持てをしな

6. 成果と課題

【成果】

- (1) 付けたい力が明確になったことで、段階的に指導ができた。個別の能力に絞って課題を考えると、様々な教材で書く力を伸ばすことができた。
- (2) 型を与えたことで、書くことが明確になり、生徒が意欲的にとりくむことができた。ただ「感想を書く」だけでなく、こちらから観点を与えた課題作文の形で書かせることで、構成を意識することができた。また、題材や観点が決まっているため書くことがない、書けないという生徒にも指導がしやすかった。
- (3) 書く目的を絞って書かせたことで、生徒のつまずきに応じて個別に支援することができた。
- (4) 書く機会を増やしたことで、自分の意見に自信をもってとりくむ姿が見とれた。空欄のままにしておくことが少なくなった。

【課題】

- 段階的に書く能力を更に高められるように、年間指導計画に組み入れていきたい。
- 作文を書いたあとの推敲の時間が少なかったため、推敲のとりくみも工夫したい。
- こちらから課題を与えて書くことが多かった。今後は自らテーマを選んで書くとりくみを増やしていきたい。

資料編

時期	教材名	指導事項	とりくみ
4月 《1》	「握手」	A「構成」	文章読解後、「ルロイ修道士は〇〇〇人物だ。」「どうしてそう思ったか」といふと、(……本文から引用して書く……)とあり、「～～と思ったからだ。」という型にあてはめて人物像を書く。
5月 《2》	「学びて時にこれを習ふー『論語』から」	A「構成」	「論語」の孔子の言葉を知り、同じようなことを思った経験を振り返って課題作文を書く。
9月 《3》	実態調査Ⅰ		①アンケート調査 ②「千葉のやる気学習ガイド」3(62頁)を用いて意見文を書く。
9月 ～ 11月 《4》	新聞記事ワークシート	B「記述」	10分間の朝読書の時間で、新聞の切り抜きを貼ったワークシートを配付し、感想を書く。書いた感想の中からいくつかを選んで掲示した。4回行った。 ・パ・リンピック(9/27) ・ちば型食生活の実践(10/5) ・ノーベル賞関連記事(10/12) ・年賀状配達休止(11/2)
10月 《5》	「新聞の社説を比較して読もう」	A「構成」	①双括型・頭括型・尾括型の構成の仕方を理解し、序論・本論1・本論2(反対意見)・結論の内容構成を学ぶ。 ②簡単な意見文のアウトラインをつくり、意見文の書き方を全員で確認する。 ③社説を読み、意見文の構成を学ぶ。 ④アウトラインを書き、四百字程度の意見文を書く。
11月 《6》	「君待つと一万葉・古今・新古今」	B「記述」	好きな和歌を選び、その理由とともに「なぜなら～からだ。」という理由を示すフレーズを使って文章をつくる。 “私は「……」の和歌が良いと思った。なぜなら、～からだ。”の形で書く“～”の部分は鑑賞ポイントの言葉を使っても良いこととした。
2月 《7》	「誰かの代わりに」	B「記述」	作品から筆者が考える「自立」とはどのようなことかを読み取り、自分が考える「自立(した人)」とは何かを考え、文章にまとめた。
2月 《8》	実態調査Ⅱ		「千葉のやる気学習ガイド」3(63・64頁)を用いて意見文を書く。

(學習前)

を	る	ろ	ろ	も	な	和
思	人	く	は	そ	い	は
う	が	は	無	う	人	大
の	ろ	知	い	で	が	気
外	く	の	の	し	い	汚
船	な	で	こ	た	の	染
底	い	り	こ	中	で	は
の	と	こ	と	国	は	具
出	い	こ	と	が	具	体
来	う	こ	と	ら	的	的
る	事	と	互	決	に	透
事	な	互	同	て	か	明
た	の	同	題	く	な	出
と	ひ	た	と	る	し	来
思	も	思	て	聖	ま	る
い	と	思	い	教	した	程
ま	同	て	ろ	大	私	知
す	題	い	人	局		ら

120

問二 問一のメモをもとに、自分の考えを百二十字程度で書きなさい。

問題を解決するための自分の考え

日本のえらい人が中国と話しをして、悪い空気を出さないようにしてもらう

イ 課税の現状

空気が汚くて、先が危くなつてしまふ人が居る

ア 意見文で一番伝えたいこと

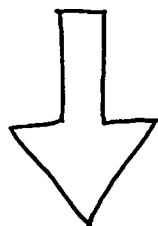
自分たちが出来ることをやる

Σ(Δ) 数へりし

目標① 社会生活の中から問題を決め、事実や意見がはつきりとあらわれるように書き表すことが出来る。

「国路の時間に、『最近の社会生活の中から問題をを見つけ、意見文を書く。』ということになり、選
 ばれた問題の中から『大気汚染』を選んだとして、あとの問いに答えなさい。」

問一 「大気汚染」について、あなたが原稿を作成するとして、次のア～ウについてメモをとりたい。



型を生かして書けるようになっている。

(學習後)

[illegible]

209

四三 右のメモを参考にして、あなたの考えを七十分以内を目安に、二百字程度で書きなさい。

図二 あなたは自分の考えを表すために何から情報を得るか。(一)

た、その情報からどんな根拠を挙げるか書きなさい。(複製可)

加藤一（日三博士宅）

フコはどなたにでもあるのか

情報・インターネット

じうや、たらきれいできろのか胡べろ

イ 課題の現状

水をきれいにしていこう

ア意見文で一番伝えたいこと

自分の住んでいる町の水はとてよかった

ウ 問題を解決するための自分の考え

「アミのふいぢで直さない」

二 国語の時間に、「最近の社会生活の中から問題を見つけ、意見文を書く」ということになり、環境問題の中から「水の汚染」を選んだとして、あとの問いに答えない。

問一「水の汚染」について、あなたが原稿を作成するとして、次のアウツについてメモをとりなさい。

生徒C：気持ちに波があり、国語の学習にも意欲をもって参加できるときと、そうでないときがある。わざと反抗的なことを書くこともあり、はじめの実態調査では、否定的な意見を書いていた。途中の学習では、課題を最後まで完成させられないことも多かった。しかし、「新聞の社説を比べて読もう」では、意見文の型にあてはめて書こうとしていた。最後の実態調査の時には、論の展開を意識してよく書けていた。そのことをほめて、反対意見も想定して書くと良いことを助言すると、「反対の立場からも書いていいの」と言って、クラスで一人だけ、二つの作文を書いてきた。

[學習前]

[illegible]

～握手～《1》作文は途中で書き進められなかったが、アウトラインはつくれた。

④ルロイ修道士の人物像を捉えよう。

「ルロイ修道士はこんな人物だ」

ルロイ修道士は、

ナナダクタとして活動し、

そのように思われるように、

行く場のおもむきよさを表現する。

(おまじない)

マニシムンクンシン
リジン

花のてん。

共感したものを**選び**、一行目は書けたが、
二段落目以降に**進め**なかった。

學びて時にこれを習ふ②——「論語」から

[illegible]

①「學びて歸ら……」學問には、自分自身で學ぶこと、「と學問について語り合ふこと、學問によって自分の【 】を完成していくという意圖がある。」がある。

「故きを温めて新しきを知れば……」先人の述べた学問などを温めて新し研究して、一方で「意圖を発見できれば、人の師となる資格がある。」

⑤「學びて思はざれば……」【ことごとく】
重畳で、一方が欠けたり、偏つたりしてはならない。

④「これを知る者は……」何事も、それを「
それを好む人に及ばず、好むということば、それを樂しむ人には及ばない。」
「というだけでは、」

☆課題作文

1 二段落構成とする。ただし、一段落目には「私は①②・③・④の孔子の言葉に共感した。」とだけ書く。二段落目には、自分の生活や体験を振り返り、一段落目で選んだ「論題」の言葉がはたまる場面を思い出しで書く。

ヒント(体験→まとめ(つまり→要約))→初めくぐりの言葉 とまとめる。

(最後は「だから(これらのことから)、私は孔子の①の言葉に共感した。」と書いて終わらせるとよい。)

3 一六〇字以上二〇〇字以内で書く。

私は①の孔子の言葉に共感した。

糸は①の孔子の言葉に
 感動した。

新聞の社説と比較して読む

「和食の魅力」を語る社説の文章に対して、

洋食の方が好き」という考えをもった。

和食の良さに反論はできていないが、

社説に書かれている「和食の魅力」を利用して、意見を展開させようとしている。

洋食の良ナリ

和食は和食より洋食が好まれた。一
せん、和食は日本の食を指すけ
るから、今や洋食といふのは、
食の物があり、見た目がよいと思
うたが、和食にもよいところ
あり、でも、私は洋食の方が好きだ。
最近、日本は洋食も好む人々
きて、洋食と食へる機会が増くら
てゐるといふので、さうして、箸食
との距離が縮まらずともよいと
思ふ。それをきく、かたは日本人
ばかり、今日日本に居りつゝ思
食の世界で食へられるといいこ
全ての友を見せめて私に洋食が
好まれた。

推敲のポイント

□「**読者のための読者**」□

□「4月」なななななな

口實。方氏曰：「此等文字，不可不讀。」

2021年11月16日

口々々々々々々々々々々々 (あひやうき)。

□××××「え」「うん」山崎！ ちんぷん。

[illegible]

1. 2019年12月25日
 2. 2019年12月25日
 3. 2019年12月25日
 4. 2019年12月25日
 5. 2019年12月25日
 6. 2019年12月25日
 7. 2019年12月25日
 8. 2019年12月25日
 9. 2019年12月25日
 10. 2019年12月25日

おからないから書けない、と言っていた。
 その一とでそのまゝ書いても良いと知ったら、おの
 'ふり'に書いたので。

(學習後)

水のみを染はぬ大てハハハハハ

○ 國庫券發行十兆の發行

図二 あなたは自分の考えを述べるために何から言葉を導くか。
 だ、その情報からどんな疑問を導けるか書きなさい。(複数可)

情報2 (受取)

図三 右のメソを基準にして、あなたの考えを七分以内を目安に、二頁半程度で書きなさい。

1

206

